

【言語聴覚科】

3つのポリシー

1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）

【知識】

- ① 言語聴覚士として必要な基礎的知識を修得している3つの
- ② 言語聴覚士としての専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる

【技術】

- ③ 正確な評価技術を修得し、効果的なリハビリテーションを実践できる
- ④ 信頼される医療従事者としてのコミュニケーションスキルを身につけている

【態度】

- ⑤ 専門家としての自覚をもち、常に学び続ける姿勢を備えている
- ⑥ 相互理解を深め、チーム医療の一員として多職種連携に貢献する姿勢を備えている

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針） ※学園共通

【教育内容】

- ① 学科ごとに定められた教育課程を DP との相関関係（カリキュラム・マップ）を明確にしたうえで体系的（カリキュラム・ツリー）に編成します。
- ② 基礎領域から専門領域を通して必要とされる知識・技能の習得し、倫理観や人間性を涵養する教育を実施します。
- ③ 多学科合同の多職種連携教育を実施します。
- ④ クレド（行動指針）の実践を通して、共感力や他者を尊重して支援できる力を養います。
- ⑤ 学内外の様々な活動を通して学生の成長を促す教育課程外活動を実施します。

【教育方法】

- ① 講義、演習、実習、実技などを適切に組み合わせた授業方法で展開します。
- ② シラバスに授業目標、内容、方法及び評価方法を明確に示し、すべての授業科目に一般目標（GIO）と到達目標（SBO）を定めます。
- ③ 主体的に課題を解決できる能力を育成し、生涯学び続ける力を養うために、アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）などを取り入れます。
- ④ サブノートなどの学校独自の教材を用いて、1 年次から国家試験を意識した授業を実施します。
- ⑤ 学修者の個々の理解度に合わせた丁寧な学習サポートを、学校独自の教育システムにより実施します。

【学修成果の評価】

- ① 成績評価の方法は、科目試験、小テスト、レポートなど多様な方法の中から適切な方法を選択または組み合わせで行います。
- ② 授業の到達目標、成績評価の方法、成績評価の基準はシラバスに明記し、客観的かつ公正に行います。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針） ※学園共通

- ① セムイの精神（=手をさしのべられる心）を理解し、主体性を持って多様な人々と協働し、学び続ける意欲がある人。
- ② 医療・福祉の現場で役立つ知識・技能・態度を習得し、社会に奉仕しようという意欲がある人。
- ③ 入学後の学びに必要な基礎学力を有する人。
- ④ 協調性や基礎的なコミュニケーション能力を有する人。